

# 正しく知って接種の判断を

市新型コロナワクチン接種推進グループ ☎ 65-1522

59歳以下の若い世代の人にも順次接種券を発送しています。若いから接種しなくても大丈夫と思わず、正しい知識を持って接種を受けるかどうか判断しましょう。

出典・参考：厚生労働省ホームページ

## 新型コロナワクチンの効果

### 感染そのものを防ぐ効果

当初は、「発症を防ぐ」のであって「感染そのものを防ぐ」かどうか分かっていませんでしたが、感染を防ぐ効果も分かってきました。

ワクチン接種をすることで感染を防ぐことができれば、周りの人に感染を広げることありません。若くて持病もない人の中には、「感染しても重症化しない」「接種しても意味がない」などと思っている人がいるかもしれませんが、**自分の家族や周りの人を感染から守ることができるのなら、接種する意義は十分ある**と言えるのではないのでしょうか。

### 接種していない人にも恩恵

接種率が高い地域では、接種を受けた人だけでなく、**接種していない16歳未満も感染者が減っています**。自分の子どもが接種対象年齢から外れていることで不安に思う人も多いと思いますが、**家族が接種することで、間接的に子どもを守る**ことにつながります。

### ワクチン接種による感染・発症予防効果

	感染予防効果	発症予防効果
男性	91%	88%
女性	93%	96%
16～39歳	94%	99%
40～69歳	90%	90%
70歳以上	95%	98%
基礎疾患なし	91%	93%
基礎疾患あり (3つ以上)	86%	89%

ファイザー社製ワクチン 資料：厚生労働省

### 重症化しにくい、周囲に広げにくい

ワクチン接種後に新型コロナに感染した人は、ワクチン未接種で感染した人に比べ、①排出するウイルスの量が少なく、排出期間が短い ②全く症状が出ない無症候性感染者の割合が高い ③症状のある期間が短い、ことが分かっています。**周囲に感染を広げにくく、自身も重症化しにくい**と考えられます。



### 気になる疑問

**Q** 妊娠中、授乳中、妊娠を計画中ですが、ワクチンを接種することができますか？

**A** できます。新型コロナワクチン（mRNA ワクチン）が妊娠、胎児、母乳、生殖器に悪影響を及ぼすという報告はありません。

**Q** ワクチン接種以外でも免疫力を上げられますか？

**A** 睡眠時間の確保、運動、禁煙、肥満や低体重を避けること、バランスの良い食事を取ることなどが感染防御のために効果的だと考えられています。しかし、ワクチンのように特定の感染症のリスクを下げることは困難です。

# ワクチン接種の副反応

接種後に注射した部分の痛み、疲労、頭痛、筋肉や関節の痛み、悪寒、下痢、発熱などがみられることがあります。

## ファイザー社製ワクチンの副反応と頻度

資料：厚生労働省

副反応の症状	発生頻度
接種部位の痛み、疲労、頭痛	50%以上
筋肉痛、悪寒、関節痛、下痢、発熱、接種部位の腫れ	10～50%
吐き気、嘔吐	1～10%

頻度はごく低いですが、アナフィラキシー（急性のアレルギー反応）が発生したことが報告されています。



### 気になる疑問

**Q** 副反応は1回目より2回目の接種後の方が強いと言われるのはどうしてですか？

**A** 1回目の接種でいくらか免疫がつくことで、2回目の方が免疫反応が起こりやすくなるため、発熱や倦怠感、関節痛などの症状が出やすくなります。

**Q** アナフィラキシーは、どんな症状が出ますか？

**A** じんましんなどの皮膚・粘膜症状、腹痛や嘔吐などの消化器症状、息苦しさなどの呼吸器症状、血圧低下や意識消失などの循環器症状などがあります。接種直後から10分以内に生じることが多く、おおむね30分以内に症状が現れます。

## 副反応による健康被害が起きたら

ワクチン接種では、一時的な発熱や接種部位の腫れなどの比較的よく起こる副反応以外に、病気になったり障がいが残ったりする健康被害が生じることがあります。

こうした健康被害が予防接種によるものと厚生労働大臣が認定したとき、予防接種法に基づき、医療費・障害年金などの給付が受けられます。

### 給付の種類

医療費、入院通院に必要な諸経費、障害年金、死亡一時金、葬祭料、遺族年金など

### 申請方法

健康被害を受けた本人やその保護者が、予防接種を実施した市町村に申請を行います。申請には必要となる書類がありますので、ご相談ください。

### 給付の決定

提出資料を基に、申請を行った市町村、厚生労働省が書類や症状をチェックし、外部有識者で構成される「疾病・障害認定審査会」で審査します。審査結果を受け、市町村から支給の可否を通知します。

## ワクチン接種は強制ではありません

さまざまな理由で接種ができない人や望まない人もいますが、個人の判断は尊重されるべきものです。差別やいじめが起きないように、ご理解ください。

### 副反応や健康被害に関する問い合わせ

厚生労働省コールセンター  
☎0120-761-770  
9:00～21:00

県コールセンター  
☎0120-567-231  
24時間対応

### 申請に関する問い合わせ

ワクチン接種推進グループ  
☎65-1522  
8:30～17:15（土日祝除く）